

森本委員 お疲れさまでございます。市民・民主フォーラムの森本真治でございます。10分ちょっと時間があると思いますので、質問はそんなに多くないんですけども、どうぞよろしくお願いいたします。

初めての、私、予算特別委員会での質問でもありまして、まず、本市の目指す教育の方向というところでありまして、先ほども谷川委員からお話がありましたように、言うまでもなく、教育は人づくりということでございまして、一体、今回も16年度予算でさまざまな事業がありますけれども、広島市の将来を担う人材を、どういう人材を育成していこうと考えてらっしゃるのか、その基本姿勢の部分について、最初ですからきちんと議論もさせていただきたいところではあるんですけども、残念ながら時間の方も限りがありまして、事前に広島市のこの21世紀教育改革推進総合プラン検討会議の提言ですとか、教育長さんの仕事宣言なども見させていただく中で、5つの努力目標というのが掲げられておりました。読むだけでは、どれもすばらしくて、特にこれは問題だとか、反対するようなところがあるわけではないんですけども。

本当、個人的な感想ではあるんですけども、今目指している方向というのは、子供たちが生きていく上での力を身につけてもらおうと言いますか、その個というものを大切にしていこうということが重点に置かれているのかなという気もします。もちろん、一番大切なことではあるんですけども、私が思うに、それに加えて公教育、公の教育のもう1つの大切なところは、特にこの広島市の公教育に関しては、広島市、自分の育ったこの広島として、故郷を愛する心というものをきちんとはぐくむと言いますか、次の世代にこのすばらしい町を引き継いでいくんだという心を培っていく教育というのも必要になってくるのではないかというふうに思います。

市長さんがよく言われますように、広島というのは、私も世界のどの都市にも負けない都市であると思うし、これからみんなで作っていかねばいけないというふうに思うんですが、なかなか今、市民の皆さんは広島というのが元気がない、元気がないという言葉が多くて、この間の本会議の総括質問の、私は土井委員の総括質問などを聞いて、とても感動を覚えたわけなんですけれども。人の心がまず前向きにならなければ、いつまでもこの元気な広島というか、活気が生まれないのかなというふうに思います。

そういう意味で、何より大事になることが、本当、繰り返しになりますけれども、このふるさとを愛する心というのを、この広島のために身を捧げていくんだというような、そういうようなことを考えられる人材というのをどんどん育成していく必要があるのではないかというふうに思っております。

そこで、まずお伺いしたいんですけども、今回、予定されている事業の中で、また教育委員会さんの基本姿勢の中で、先ほど申し上げたようなことを意識しているような事業があるのかどうか。それに近い言葉ということで当てはまるのかどうか、ちょっと私もよくわからないんですけども、目指す方向で広島らしい新しい教育という言葉が出てまいります。この広島らしいという意味、これが、私が先ほど申し上げたようなことを意味しているのか、ちょっと読んでみると、若干、ニュアンスが違うような気もするんですけども、その辺について、まずはお伺いしたいと思います。

長谷川企画課長            本市におきましては、21世紀教育改革総合プラン検討会議の提言を、平成13年2月に受けまして、心身ともにたくましく、思いやりのある人を人間像として掲げております。そして、基礎・基本の学力の定着とともに、規範性、感性、体力、コミュニケーション、この能力の4つの力を学校、家庭、地域が一体となって町ぐるみではぐくんでいく、広島らしい新しい教育を推進しております。

先ほど委員御指摘の部分でございますが、こういった意味でも、子供たちに郷土広島を愛する心を培うことや、それから広島の心などを醸成することは、本市の教育を推進する上で、とても大切なことだと考えております。

そういったためにも、学校におきましては、この広島の恵まれた自然や歴史、文化等を生きた教材としまして取り入れ、勤労や観察等の実体験に基づいた学習指導を展開し、郷土広島のよさを生かした教育活動を推進しております。

具体的な部分を申し上げますと、子供たちに郷土広島を愛する心を培う取り組みとしまして、小学校の社会科や、中学校の総合的な学習の時間において、地元の伝統芸能や、地域の発展に尽くした先人の働きなどを取り上げた、小学校の体育の授業なんですけど、ここへ広島東洋カープやサンフレッチェ広島などのプロ選手や、地域の競技経験者を招聘しまして、直接指導を受ける場面を設けたりしまして、地域への興味関心を深めるということと、それから地域を愛する心や思いやりを思う心を育成をしております。

また、「ヒロシマの心」の部分でございますが、この醸成に向けた取り組みとしましては、こどもピースサミットにおいて、各小学校6年生から、平和についての作文を募集をしましたり、総合的な学習の時間等を活用して、平和記念資料館の見学や、平和記念公園での碑めぐりを行っております。また、被爆体験証言者の話を聞くなどして、平和意識の高揚や被爆体験の継承を図っております。

また、広島のまちづくりに貢献しようとする気持ちを醸成する取り組みといたしましては、小中学校では、先ほど申しました総合的な学習の時間等において、地域でのボランティア活動の一環として、清掃等を行っております。さらに高校では、生徒が地域住民と一緒に花を育てたり、その花を街頭に植えるなどの緑化活動を行っております。

市民を対象とした、そういった公開講座で生徒が高齢者等にコンピューターの指導を行ったりするなど、まちづくりに貢献する機会に努めております。

森本委員            御答弁、大変すばらしい取り組みがいろいろあるのだなというふうにも思うんですけども、本当に、例えば体験みたいな感じで、1回2回、そういう地域のことを経験する中で、本当にそこまで地域のことを、郷土のことを愛せる力というのが培えるのかなというのがひとつありまして。

実は、先ほどの中でもあった郷土芸能の件に関して、私も地元で今、神楽保存会というのに入っております、地元の学校から、通年を通して神楽の指導をしてくれないかというような話がこの保存会に来たんですが、やはり、なかなか1回とか2回なら、指導する側も、それは時間とってやりましょうということになりますけど、平日の、皆さん仕事しているような段階の中で、そういうことを、通年通してというのはなかなか難しいと。

けども、そのぐらいまでやらないと、本当にふるさとのことを感じてということやっぱり

できないんで、あの辺をもっと考えていかなければいけないんですが、これは私も実際の経験の中から思いました。本当に私の世代、若い人、どんどん県外、東京や大阪の方へどんどん行く中で、でもその神楽を子供のころからやってきて、やっぱり戻ってくる人っているんですよね。それをやりたいということで。

だから、本当に伝統というものは素晴らしいもので、そういうものを何とか、1回や2回の体験ではなくて、できるような方法を考えていただければなというふうに思います。

もう5分を切ってしまいまして、もう1つ用意してた質問で、山本委員からも少しありましたけれども、高校生の国内・国外留学推進事業というものがございまして、これについての御答弁、山本委員のときにはなかったものですから、ちょっとお伺いしますけれども。

まず、この目的と言いますか、概要、1分ぐらいでお願いします。

西本指導第二課長 国際的な視野を持った高校生を育成することを目的といたしまして、この事業を平成13年度より実施をしております。

概要でございましてけれども、平成13年度に生徒募集、14年度に米国、スウェーデン、オーストラリアに各6名の高校生を派遣し、平成15年度に帰国報告会を開催というように、3年を1サイクルとして事業の実施をしております、来年度以降からもこういった方法により進めていきたいというふうに考えております。

森本委員 若干、山本委員も指摘されたんですが、これ、人数が本当限られてますよね、この行ける学生というのがですね。

それで、9万強の高校生いる中で、10人弱の子供しか行けないわけですよ。そういう面で、公平性の観点というところもありますし、きちんとこれをアウトプットするということですよ。行った人がどう反映していくかということ。

ここについては、ちょっと質問しませんが、それでもう1つ、この留学生の問題で、事前に研修をされてると思うんですけども、研修内容について、30秒ぐらいで、済みません、お願いします。

西本指導第二課長 海外に出向くわけでございますから、語学の研修はもちろん、その国の文化、伝統等について研修するとともに、海外に出て、広島の高校生として海外に出て行くわけでございますから、広島の文化、歴史、そして広島よさ、そういったものがアピールできるような事前の研修というものを実施をしております。

森本委員 先ほど、まさに言っていたんであれなんですけども、この留学生の目的として、個人の子供たちに対していろんな見聞を広めてもらうということは大切なんですが、やはり税金を使っていくわけですから、きちんと広島を理解してもらって、それを海外にアピールしてもらえる、そういう研修をしっかりとさせていただきたいと思います。

私も、かつてヨーロッパの方とか行った経験がありますけども、日本で東京、京都の次に、やっぱり有名なのは広島なんです。その時に、広島のことをきちんと語れるということを中心に、案外、日本人よりも向こうの方が詳しいことが多いですからね。そういうところはしっかりとさせていただきたいと思います。

時間になりました。中途半端なんですけれども、終わります。ありがとうございました。

